



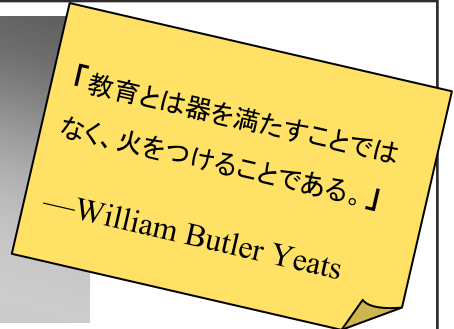
The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 19 | Issue 1 | September 2015

➡ In this issue...

- ▶02...新入スタッフ紹介
- ▶04...理事長よりご挨拶
- ▶05...IBディプロマの結果
- ▶06...創立者奨学金
- ▶07...Keerti、おめでとう!
- ▶09...園庭の改修
- ▶10...KIPSから、こんにちは
- ▶15...KISTでの協力関係の重要性
- ▶16...11年生の熱海宿泊合宿
- ▶21...セカンダリーSRC
- ▶22...慶応義塾大学インターンシップ
- ▶24...卒業生大学合格実績



学校長より.....

皆様、学校へお帰りなさい! 夏休み中はご家族やご友人と楽しく、ゆったりとした、思い出に残る時を過ごされたことと思います。

先日の保護者説明会へのご参加ありがとうございました。昨年度のすばらしい結果をお聞きになり、皆様も今学年度の更なる進歩と、目標達成をご期待下さっているとします。

これまでも、2015年度卒業生の達成したDP結果をお知らせするE-Communicationsを幾つかお送りいたしました。今年度のDP平均点35.89という結果は2018年までのKIST目標に限りなく近付いたもので、本目標を設定し、様々な対策を講じてからの短い期間でこのような結果を得られたことを誇らしく思っております。今年度は9名の卒業生がDPで40点又はそれ以上を取得し、創立者大学奨学金の対象となりました。創立者の小牧ご夫妻のご好意で、このすばらしい成績を獲得した2015年度卒業生に対し、合計6,500,000円の奨学金が授与されました。卒業生のすばらしい結果を称えとともに、生徒達に最良の教育を提供できるようにご協力くださいました皆様にも感謝いたします。

また、この場をお借りして、毎号学校新聞The Cometに寄稿くださいますコミュニティメンバーの皆様にも感謝いたします。昨号はとくに印象深いものでしたが、今号も皆様がお楽しみ下さる事を願っております。今年度のThe Cometでは、皆様に学校理事会や、その活動内容を共有するため、理事会のページを設けました。これにより、普段あまり表に出ない、KISTをサポートするための活動の一端を皆様にご届けようと思っております。

KISTでは今年も学校目標達成と、生徒により多くの機会を提供するために皆様と協力できますことを楽しみにしております。最後に、皆様の日ごろの学校へのご協力に感謝するとともに、ご懸念点やご相談の際には直接学校もしくは私に直接ご連絡いただけますようお願いいたします。



Jeffrey Jones
Head of School

DATES TO REMEMBER



September 2015

- 14 MYP information session for G6 parents and new parents (*Evening)
- 19 (G6-G12) High school drama festival (@Saint Maur)
- 21 School holiday
- 22-23 Staff development days (no school for students)
- 28-29 School photographs
- 29 PYP information session for new parents (*Evening)

October 2015

- 3 SAT@KIST
- 5 (W) Free dress day (Arranged by Secondary SRC)
- 8-9 (G5) Tech day camp
- 12 School day
- 12 (G1-G5) Field day
- 12 (G10) MYP Personal Project information session (*Afternoon)
- 14 (G10) PSAT tests
- 17 School explanation day (for prospective parents)
- 19 2016-2017 enrollment applications open
- 21 Last day of quarter 1
- 23 KISTival preparation day (Nu-G5) No school for students (S) School day
- 24 KISTival 2015
- 25-Nov 1 Autumn break



新入スタッフ紹介

KISTスクールコミュニティを代表し、2015-2016年度の新入スタッフに暖かい歓迎メッセージを送りたいと思います。皆様のご活躍を祈り、共に楽しい時間を過ごせることを願っています。

教員



Momoko Aoe
MYP/DP Mathematics



Wilson Fong
MYP/DP Mathematics



Hitomi Hamano
MYP/DP Japanese



Donna Linnett
MYP English A /
Intensive English



Bartholomew Miller
Grade 4B



Steven Otis
MYP/DP English A



Evelyn Pang
MYP Humanities /
DP Geography



Bethan Thomas
Grade 4A

ELSインストラクター



Jade Bonus
ELS Instructor G1A



Kana Furnival
ELS Instructor K2



Sarah House
ELS Instructor K1



Katherine Millican
ELS Instructor G1B



Axel Norwood
ELS Instructor G2



Geri Snow
ELS Instructor
(Secondary)



Catherine Wells
ELS Instructor K1



Karl White
ELS Instructor K3A



Bridget Willson
ELS Instructor G4

前ページの続き

アシスタント



Rebeka Amin
School Laboratory
Technician



Ashley Chin
Intern
(Elementary School)



Erika Ishibashi
LMC Library
Assistant



生徒の国籍

これまでもKIST生の国籍は50カ国程度でしたが、2015-2016年度も同様に49カ国からの生徒を迎え、真に国際的な学校としての一年をスタートしました。



American



Australian



Bangladeshi



Belgian



Brazilian



British



Canadian



Chilean



Chinese



Congolese



Danish



Dutch



Estonian



Ethiopian



Filipino



Finnish



French



German



Indian



Indonesian



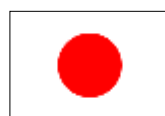
Iranian



Israeli



Italian



Japanese



Korean



Malaysian



Mexican



Myanmar



Nepalese



New Zealander



Norwegian



Pakistani



Panamanian



Polish



Russian



Senegalese



Serbian



Singaporean



South African



Spanish



Sri Lankan



Swedish



Swiss



Taiwanese



Thai



Turkish



Ugandan



Ukrainian



Vietnamese

理事長よりご挨拶

新学年度の年頭にあたりまして、学校の運営母体であります理事会を代表しご挨拶させていただきます。

皆さんもすでにご存じの通り、2015年卒業生はIBのディプロマ(DP)試験においてKISTの歴史に残る素晴らしい結果を残してくださいました。この結果は、卒業生のみならずKISTの在校生にとって最高のプレゼントになります。

なぜKISTは、DPの結果にこだわるのでしょうか？

それには2つの理由があります。

まず、一つ目はIBプログラムを採用することを当校が選択した理由にあります。KISTのミッションに「質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することである」とあります。IBプログラムは考える力や分析する力、応用する力やコミュニケーション能力など21世紀の複雑な世界で活躍するために必要なスキルや知識を高いレベルで習得できるよう、デザインされています。最終的にDPで高結果を得ることは、それらのスキルや知識が高いレベルで身に付いたことになり、学校のミッションを果たしていることの証明の一つになります。

2つ目の理由は、DPで高結果を出すことで学校の教育レベルが高いとみなされ、大学の入学選考や奨学金付与の検討に有利になることです。

大学は入学選考において学校が提出するDPの受験者数や合格者数及び合格者平均点などを記したSchool Profile(学校概要)や、直接IBからそれらのデータを取得し、学校の教育レベルを判断します。DPIは5月受験で7月結果発表という時期の関係から、殆どの大学は実際に取得したDPの点数ではなく、学校が各生徒に対しDPの最終取得点を予測したDPの

プリアクショングレード(PG)で入学選考をするため、学校の教育レベルが高い方が合否や奨学金付与検討にあたり有利になります。

当校の在校生に取って各国の大学への入学選考に有利であることも重要ですが、学費が一部もしくは全部免除となる奨学金付与検討に有利であることも非常に重要なことです。アメリカやイギリスなどの一流とされている大学の学費は年間500万円を超えることも珍しくなく、奨学金が付与されることで、希望の大学へ進学することが可能となる生徒もKISTには多く在籍しています。学校は生徒たちの将来への希望をつなげるためにも、教育レベルの高い学校であると判断されるような結果を出し続ける責任があると考えています。

KISTでは、優秀な生徒だけを選んでDP受験させるようなことはしていません。学校のミッションに、「意欲的な子どもたち」を対象に質の高い教育を提供するとあります。学習に対し意欲的であり、真剣に取り組む生徒をしっかりとサポートし、今後もDPで高結果が出るよう成功に導いていきたいと思っておりますので、保護者のご理解とご協力を心からお願いしたいと思います。

決算報告書について

2014年4月—2015年3月期決算が2名の監査役による監査を経て、理事会の承認と評議委員会への報告が完了いたしました。本決算報告書の閲覧を希望される方は、財務担当の前田までご連絡のうえ閲覧予約をお取りください。法律に従いまして閲覧対象者は在校生とその保護者、学校スタッフに限ります。尚、決算期間が実際の学校年度とあっていませんが、私立学校法により決算期間の変更はできませんのでご了承ください。

建設計画について

新校舎及び体育館の建設計画につ



いてご報告いたします。東京オリンピック決定に伴い建設需要が大幅に増え、現在建設業者は人手不足により新規に受注する余裕がなく、かつ人件費及び資材等の高騰により建設コストが約2倍となったことから、江東区と協議の上、東京オリンピックが終了し、状況が改善されるであろうと予測される2020年12月までに既存の体育館を撤去、2022年12月までに既存のメインビルディングを撤去することで合意致しました。

依って、学校は2020年に向け、新校舎及び体育館建設計画を進めてまいります。現在キスティバル等の収益や寄付金など建設資金をプールしていますが、建設コストがある程度高止まりすることを予測して、2020年に向け計画的に建設資金を貯めていく必要があります。東日本大震災以降、生徒の人数が減少した社会経済の悪化により昨年度まで授業料上げを見送ったため、入学時に徴収しています設備拡張費は、2009年8月に竣工いたしました西館建築費用の借入金返済の一部に充当していましたが、今後は施設拡張費を新たな建設資金として積み立てができるよう年度予算を組み、建設を計画通り進めてまいりたいと思います。皆様には変更となりました新校舎及び体育館建設計画並びに建設資金積み立てへのご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に
理事会は、KISTのミッションをより高いレベルで達成するよう、最善を尽くしてまいりますので、今年度も引き続きよろしくお祈りいたします。

ケイ・インターナショナルスクール東京
理事長 小牧 義重

DPニュース

IBディプロマの結果 – 2015年7月

夏休み期間中に2015年度卒業生にIBディプロマの結果が公表されました。下記表は昨年度卒業生の結果と、2011年から2015年の卒業生の結果をまとめたものです。

卒業年度	12年生の数	IBディプロマ 取得生徒数	IBディプロマ 取得生徒平均点	KIST 最高得点*	世界平均
2015	29**	27	35.89	45	TBA
2014	37	33	33.41	43	30.10
2013	35	29	32	42	29.81

*満点: 45 点

**2015年は28 名がディプロマを受験し、1名がCertificateを選択

上記表が示す通り、2015年度卒業生の結果はKISTにとっても著しく素晴らしいものでした。今年度のKIST平均点は昨年の世界平均点をはるかに上回り、あと少しでKISTの目標である平均点36点に到達するところでした。学年の28名がフルディプロマに挑戦し、27名(96%)が合格しました。更に、残念ながらフルディプロマを逃してしまった生徒は、1点不足していただけでした。KISTは、IBが公表する以下2分野の統計に勝っています;IBディプロマ候補(履修者)の50%以下のみがフルディプロマに挑戦し、そのうち、合格者は80%です(IB, 2014)。

KISTにとって重要な点のもう一つは、2015年卒業生のうち、以下9名の生徒が40点以上を取得しました: **Mina**、**Roshana**、**Jamie**、**Tamami**、**Mikio** が 40点、さらに、**Minami** と **Kouta** が 43点、**Tatsuya** は44点という素晴らしい好成績で、**Keerti** は45点満点を達成しました。

最終的に24名(89%)が30点以上の得点でIBディプロマを取得しました。そのうち6名は、2言語を言語A、または「第一言語」として履修する、**バイリンガルディプロマ**を授与されています。

IBディプロマ結果についての総合的な情報をお知りになりたい保護者の方は下記をご覧ください:

<http://www.ibo.org/en/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/getting-results/>

The IBはディプロマ結果をまとめた「統計結果」を上記ウェブサイト上で公表します。2015年5月試験の「統計結果」は10月・11月に公表される予定です。

この場をお借りして、生徒の皆さんのDP試験での成功を称えたく思います。12年生を担当し、KISTの素晴らしい結果に貢献した教師の皆さんのご指導にも感謝いたします!

John Rose
DP Coordinator



mission

K. International School Tokyo provides highly motivated children from **diverse** cultural and social backgrounds with a **high quality** education in a safe and nurturing environment to become **competent** and **moral** individuals who make meaningful **contributions** to our global community.

Kインターナショナルスクール東京は、文化的社会的に多様な背景をもった意欲的な子どもたちに、安全で人をはぐくむ環境の中で、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成する。

創業者奨学金

KIST大学進学支援奨学金

KIST大学進学支援奨学金はDPの最終学年に高い成績を修める努力をし、40点以上の高得点を取った生徒に贈られます。本年度は、9名の卒業生というKIST史上最高人数が本奨学金を授与されました。皆さんおめでとう！！皆さんのこれからの学習における成功をお祈りしています。

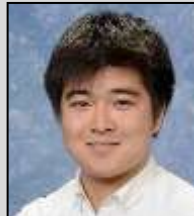


Gold Award



Class of 2015
Keerti
Gold Award

Silver Awards



Class of 2015
Tatsuya
Silver Award



Class of 2015
Kouta
Silver Award



Class of 2015
Minami
Silver Award

Bronze Awards



Class of 2015
Mina
Bronze Award



Class of 2015
Roshana
Bronze Award



Class of 2015
Jamie
Bronze Award



Class of 2015
Tamami
Bronze Award



Class of 2015
Mikio
Bronze Award

避難訓練

8月28日金曜日に今年初めての避難訓練が行われました。避難訓練は地震、津波、火災など様々な状況を想定して実施されます。日本は地震国でもあるため、最初の訓練は地震発生という想定で行いました。地震の発生という放送が流れると、生徒達は即座に安全を確保する体勢をとりました。その後、生徒達は点呼のために安全ヘルメット・防災頭巾をかぶり、校庭に集合しました。避難訓練は今後も継続的に行われます。



Keerti、おめでとう！

ご存知のとおり、2015年度のDPで、KIST史上2回目の満点取得者ができました！以下はIBの事務総長Dr Siva Kumari から満点取得者Keertiの偉業をを称える祝辞です。

Dr. Siva Kumari
DIRECTOR GENERAL



Mr Jeffrey Michael Jones
K International School Tokyo
1-5-15 Shirakawa
Koto Ku
Tokyo
135-0021
JAPAN

August 2015

Dear Mr Jones,

In the most recent IB assessment session, one of your students, Keerti Palanisamy, achieved a score of 45 points in the Diploma Programme. As you know, this is the highest possible score in the DP assessment and is awarded to only a small number of students around the world. This candidate has demonstrated their ability to perform at the highest level in each subject group as well as in the core.

I would like to pass on my congratulations to you, your coordinator, your faculty and your school for creating an environment that makes this achievement possible. I am sure that your Diploma Programme coordinator and teachers are delighted with this exceptional performance. Enclosed is a letter of congratulations for Keerti which we would appreciate you passing on.

With best wishes for the upcoming academic year,

Dr. Siva Kumari
IB Director General

直近のIB評価セッションにおいて、貴校の生徒のお一人、Keerti Palanisamyさんが、ディプロマ・プログラムの満点である45点を取得されました。ご存じのとおり、DP評価における満点は、世界中でも限られた生徒にしか与えられないものです。彼女は主要科目だけでなく、あらゆる教科において最高評価を得るだけの実力を発揮されました。

私は貴方と貴校コーディネーター、教職員の皆様、そして貴校に対し、このような成果を達成することができる環境を整えられたことへの祝福を述べさせていただきます。貴校のディプロマコーディネーターや教員の皆様もこの素晴らしい偉業を喜んでおられることと確信しております。Keertiさんご本人に対するお祝いの手紙を同封いたしましたので、お渡し願えましたら幸いです。

今年度の幸多からんことを祈念いたします、

International Baccalaureate Organization, IB Foundation Office, Route des Morillons 15, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland • Tel: +41 22 309 2240 • Fax: +41 22 769 2380
International Baccalaureate Organization, IB Global Centre, Bethesda, 7501 Wisconsin Avenue, Suite 200 West, Bethesda, Maryland, 20814, USA • Tel: +1 301 252 3000 • Fax: +1 301 252 3009
International Baccalaureate Organization, IB Global Centre, Singapore, 400 North Bridge Road # 21-01 Parkview Square, Singapore 188776, Republic of Singapore • Tel: +65 6 179 9000 • Fax: +65 6 179 3065
International Baccalaureate Organization, IB Global Centre, The Hague, Churchplein 6, 2517 JH, The Hague, The Netherlands • Tel: +31 70 252 6000 • Fax: +31 70 252 6055

ibid@ibo.org • www.ibo.org

International Baccalaureate® | Baccalauréat International® | Bachillerato Internacional®
International Baccalaureate® (IB) is a non-profit organization that provides a world-class education for students from 16 to 19 years old. It is a member of the International Council for the IB (ICIB) and is a member of the International Council for the IB (ICIB).
International Baccalaureate® (IB) is a non-profit organization that provides a world-class education for students from 16 to 19 years old. It is a member of the International Council for the IB (ICIB) and is a member of the International Council for the IB (ICIB).

エレメンタリースクールニュース

子供たちへの模範

“ ”
子供たちはあなた自身の鏡である: あなたの理想とする自分になりなさい。
-作者不明

“A Parent's Job as a Role Model”と銘打った記事で、Anthony Kane博士は、両親が子供の教育において出来る最も重要且つ唯一のことは、子供に良い模範・お手本を提供することであると書いています。KISTでは教職員に対し、積極的に子供たちに良い模範を示し、サポートを行うことを求めています。教職員がマナーや正しい態度や行動、性質の模範を示し、指導することは生徒達に良い影響を与えると確信していますが、それでもご両親・保護者の皆さんがお子さんに与える影響には到底かないません。

以下はご両親・保護者の皆さんがお子さんに対し模範を示すことができ、且つ示すべき分野です。

1. **敬意** - 近隣の方に対する接し方、周囲の方への挨拶、後に続く人のためにドアをおさえる、より必要とする人に席を譲るなどの行為やその裏にある敬意はすべて子供たちに伝わります。
2. **コミュニケーションスキル** - 子供たちは私たちのコミュニケーション方法に影響を受けます。叫んだり怒鳴ったりすることも、穏やかに話すこともすべて私たちの選択に委ねられます。子供たちは私たちのコミュニケーション手法を真似します。また、子供たちが他者について批判的な態度をとるか逆に肯定的な態度をとるかも私たちのとるコミュニケーション手法に影響されるのです。
3. **前向きさ・積極性** - 子供たちが前向きで積極的か、後ろ向きで否定的であるか、例えば半分ほど水の入ったコップを半分しかないと捉えるか、半分も入っていると捉えるかは育った環境に影響されます。

4. **健康の価値** - 運動、食生活、その他の生活習慣は両親・保護者の価値観の影響を受け、子供たちが選択していくものです。以下はEuropean Food Information Council(ヨーロッパ食事情報評議会)による記事の抜粋です。

子供たちは周囲の人々の態度や週間を模倣します。特に子供が小さい間は両親・保護者(時として兄弟姉妹)が彼らの人生における主な模倣対象となります。そのため、子供たちは自分の両親・保護者の食生活を模倣・受け継ぐ可能性が高いのです。お子さんが小さい間はお子さんに与えるご両親・保護者の影響が非常に大きいため、良いお手本を示すことはなにより重要です。

5. **感情のコントロール** - 私たちがストレスや怒り、傷ついた気持ちとどう折り合いをつけ、対応するかは子供たちにも吸収され、模倣されます。

作家、Author James Lehmanはその著作で「子供たちは生活の中であなたたちを観察している。それが彼らの仕事なのだ; それこそ彼らのあるべき姿なのだ。だからこそあなたたちが最善を尽くし、良い模範となることが大切なのだ」と書いています。

私は、親として、良いお手本になろうとするだけでは不十分だと考えます; 親の仕事 - 私たちの最も重要で、不可欠で、価値ある仕事として、良いお手本でなくてはならないと確信しています。

私も、皆様とともに、子供たちにとって前向きで、積極的な見習うべきお手本でありたいと思っております。

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal
kevin.yoshihara@kist.ed.jp



Children have more
need of models than
of critics.
-Carolyn Coats



References:

Kane, A. (2013, July 23). A parent's job as a role model - HealthyPlace. Retrieved August 18, 2015.

Parental influence on children's food preferences and energy intake. (2012, September 1). Retrieved August 18, 2015.

園庭の改修

多くの保護者の皆様がすでに今年度の園庭の大きな変化にお気づきのことと思います。また、お子様からも、学校の遊び場がどれだけ遊びやすく、楽しい場所になったかをお聞きになっていると思います。

新しく柔らかいこの人工芝は子供たちにも大好評で、子供たちは芝の上に座ったり、寝転んだり、遊んだり、より安全で快適になった環境を満喫しています。

園庭の改善・改修計画は今年の2月からはじめられました。3月には園庭に部分的に人工芝を敷くために学校コミュニティの皆様からの寄付を募りました。多くのご家庭からのご支援の結果当初の計画を大きく超えるご寄付をいただくことが出来ました。

その結果、スロープ部分の人工芝や「蚊取りマグネット」と呼ばれる、子供たちにとって安全な、化学薬品を空中に散布しない方式の蚊の駆除装置を追加で購入することが出来ました。園庭部分には樹木が多くあるため、これまでは常に殺虫剤を使用せざるを得ない状況でした。追加のご寄付のおかげで、蚊が発生しにくい環境を整備するために樹木の選定も行いました。これら対策の結果、今年度は子供たちが蚊に刺される回数が減っています。

これら改善を可能にするためのご寄付・ご支援をくださいました皆様に感謝いたします。園庭は子供たちにとってより楽しく、明るく魅力的で、安全な場所となりました。

ありがとうございました!

今回の改修工事内訳は以下の通りです。

園庭改修工事費	2,160,000円
蚊取機械設置費	212,112円
蚊対策薬剤散布費	75,600円
ペイント代金	17,025円
樹木剪定費	70,200円
不具合遊具等処分代	64,800円
改修工事総計	2,599,737円
ご寄付合計	2,291,213円
学校支出	308,524円



ありがとう!

園庭の改善のためにご寄付くださったご家庭に感謝いたします。以下はお名前を公表することにご同意くださいましたご家族です。

- G4/K3 Hirano family
- K2 Terao family
- K2 Furuoka family
- KP2 Ono family
- K3 Abe family
- KP2 Takizawa family
- G1 Komatsuzaki family
- G1 Oh family
- G1 Maeto family
- G4/G1 Maruyama family
- G2/K2 Ishihara family
- G4 Lee family
- K2/G3/G6 Ono family
- G3 Sunaga family
- G2/K1 Toda family
- 2014-2015 K3 students

KIPSから、こんにちは

今日はKIPSの子ども達が毎日どのように学校で学んでいるのかについて少しお話ししたいと思います。



皆さんもご存知かと思いますが、KIPSは昨年度開校したばかりの新しいプレスクールです。KIPSには元気いっぱいな、Nurseryクラス(2歳児)、K1(3歳児)そして一番お兄さんお姉さんのK2(4歳児)クラスがあります。

学校は早期保育が必要な方のために7時半から開いています。通常のクラスは8時40分から始まり、3時20分に終わります。その後、色々なLEAPクラスも受講でき、また、夕方からの延長保育が必要な方の為に、夜は7時までお子さんを預かっています。

ナーサリークラスでは毎日の規則正しい生活の中からいろんな事を学びます。午前中は近くの公園へ散歩へ行ったり、クラスの中で工作をしたり、単科のレッスンも行い、ダンススタジオで踊ったり、音楽室で歌を歌ったりしています。



公園で遊ぶナーサリーの子供たち

K1クラスは1年の流れの中で大きく学び方が変わります。前半は設定された教材などを中心に、自分で選んで遊ぶ中で、英語の環境で学んでいくことに慣れ、年度後半の授業へ向けての準備をしていきます。後期に入ると、グループに分かれて、より楽しく言語を学ぶため、Daily 5を取り入れて学び始めます。

K2クラスの子供達は色々な状況において、英語で会話をしています。英語の大文字、小文字の書き方を学んだり、42の文字の音を学んだり、それに加えて子供達にとってはややこしい綴りも学んでいきます。K2クラスでは、算数もDaily 5同様の形式で学んでいます。

園庭のないKIPSですが、午前中には近くの公園や隅田川ほりを散策し、子供達は元気に走り回っています。

K1とK2クラスは、毎日、単科のダンス、音楽、アート、そして日本語の授業が午後にあります。そして、毎週金曜日にはKISTのLibraryで本を借りたり、KISTの幼稚園園庭で遊んでいます。



K1とK2の運動の時間

本年度からKIPSでもPYPのカリキュラムを取り入れました。K1では現在、KIPSで仕事をしている人を訪ねて、仕事をしている姿を写真に撮ったりしながら、この周りの人たちが自分達が学んでいく上でどのようにを手助けしてくれているかについて話し合っています。

また、K2クラスは五感について学んでおり、先日は自分達の視覚、聴覚を試すため、公園へ行き、何が見えるか、何が聞こえたかについてクラスで話し合いました。

子供達はさわやかな水色のポロシャツに黒いスカート、ズボン、そして紺色の帽子をかぶっております。KISTキャンパスなどで見かけた際には、どうぞお声かけください。



Eri Ozawa
KIPS Head Teacher /
K1 Classroom Teacher

オフィスアップデート...

男子生徒用グレー色長ズボンについて

今年度より黒色長ズボンへ変更となりました。今年1年間、黒色長ズボンへの移行期間として、グレー色長ズボンは今年度末(2016年6月末)まで着用可能です。しかし、今年度中でも新たにズボンを購入する場合は、黒色長ズボンを購入してください。

健康診断

今年から申込方法が、保護者の皆様の利便性の向上のためオンラインでの申込みになります。この変更により申込締切が各生徒の受診日の3日前までとなります。Grade 12を除くKIST、KIPSの全員が対象となります。



今年も保護者である、Dr Mark、Dr Kawamura、そしてDr Takadaがボランティアで健康診断を引き受けてくださいました。心からの感謝と、御礼を申し上げます。

エレメンタリー ELS

会話を指導する

休暇明けに学校に戻ってくることは色々なことを意味します。まず、話すことがたくさんあるということです。もちろん夏休み中皆さんが無口だったと思っているわけではありません。それでも、多くの同級生や友人に囲まれる環境で、毎日の会話量や密度がぐんと増しているのです。しかも、すべての会話が同じ質のものであるわけでもありません。担任とELSインストラクターの役割の一つは生徒達の学問的な会話力を育むことです。

学問的な会話とはどのようなものなのでしょうか？重要な内容について話すとき、自身の考えを突き詰め、自身の見つけた証拠を用いて系統立てて話すとき、級友の言ったことを元に更に奥深い考えや議論に発展させるとき、相手が言ったことに敬意を持って反論するときや、自分自身の以前言ったことを翻すとき（「それは本当?」「何故知っているの?」「何故そう思うの?」など）、そして、話すことで得た知識を実際に使おうとすると、例えばその知識を今後の人生でどう活かそうか考えたとき-このようなことが起きていけば、学問的な会話と呼べるでしょう (J. Zwiers and M. Crawford, 2009).



G5AのTomoko, Shin, Johanが「視点・価値観」の概念の学習の一環として原子力問題について議論しているところ。この議論から生徒達は人の視点や価値観について: 様々な要因によって異なることがある、ということを知りました。

子供たちが自主的に学問的な会話を行えるようになるには訓練や練習が必要です。探求単元やその他の授業にELSインストラクターが参加することによって生徒達の会話力を更に強化、促進することが出来ます。このスキルの利点は後にはっきりと理解できるようになるでしょう: 研究によると、学問的な会話を習得すると、より独立した考えを持つようになり、より高度な語彙を用いるようになり、これらのスキルを文章力にも活かせるようになるそうです (J. Zwiers and M. Crawford, 2009)。家庭でも、このような学問的な会話を母国語で行えたなら素晴らしいと思います。お子さんが学校で、英語で行った会話を家でも行うことは学問的な会話力を増強し、内容に関係した概念をより良く理解し、さらにはそれぞれの言語でも語彙の増加につながります。更に良いことには、家庭で話したことをまた授業に反映させ、新しい考えや会話に繋げることができるのです (これは実際に先日G1Bで実践されました - 写真参照)。

最後に、家庭での言語・母語に使用と、そのことがお子さ



G1Bではいじめについての宿題が出されました。その後、いじめについてクラスでの討論と、ペアでの話し合いを行いました。一人の生徒がパートナーに家での会話について話しました。そこから、もしいじめつ子がいじめを止めたら友達になれるかもしれないという新しい意見に発展しました。この意見は後にクラスで更に深く考えていくテーマにつながりました。

んの言語及び認知発達に以下に繋がるかについてのアドバイスが、Bonnie Campbell Hillの著書の“EAL Family Support”という章に書かれています。この文書は、お子さんの担任教師のMoodleページ上においてあります。

たくさんの会話と新たな考えいっぱい的一年になりますように。

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS
Instructor



References

Zwiers J., & Crawford, M. (2009). How to start academic conversations. *Educational Leadership*, 66 (7), 70-73.
Campbell Hill, B. (2001). *Developmental continuums: A framework for literacy instruction and assessment K-8*. Norwood, MA: Christopher-Gordon.

エレメンタリー・インターン

エレメンタリースクールの新しいインターン生

教師を目指す世界中の実習生に機会を提供するために、今年にはKIST史上初めてマレーシアからのインターンを迎えました。

マレーシアのTaylor's Universityで教育学士(初等教育)を目指しているMs Ashley Chinが9月7日にチームの一員となり、7ヶ月のインターン期間中、様々な学年で色々な業務を行います。

学校コミュニティの新しいメンバー、Ms Chinを温かく迎えてください!



セカンダリースクールニュース

宿題とテクノロジー

皆様のお子さんにとって一年の滑り出しが順調であることを、お子さんが学習を楽しみ、安心して学校生活を送ることが出来ていることを願っています。この場をお借りして、**宿題と生徒によるテクノロジーの使用**についてお話したいと思います。

ここ数年、セカンダリースクールでは、生徒のホームワークダイアリーにも記載してあります通り、**宿題**に関する方針を設けています。夏休み中に、これら方針を教職員も理解し、実施できるよう、手引書を更新しました。手引書作成時に、宿題が適切に課され、また行われた場合、生徒の学力向上の助けとなるということを証明した研究 (Marzano and Pickering, 2007, Protheroe, 2009) を参照しました。例えば、宿題には明確な目的と生徒に求める結果がなければなりません。また、教員には宿題にどの程度の時間を掛けるべきかの目安を生徒に与えるよう求めています。昨年度、私はコミュニティの数名のご父兄から、ある特定の時期に生徒達が宿題にかなりの時間を要しているというご意見をいただきました。生徒達が一日に様々な異なる教科を学んでいるセカンダリースクールでは、宿題の量を把握し、調整することは難しいのですが、それでも生徒達がのんびりと家族と過ごしたり、趣味などに費やしたりする時間をある程度確保することは重要です。そのためにも、もし、お子さんが一個の宿題・課題に費やしている時間数についてご懸念がある場合は直接お子さんの担任か、私にご連絡ください。

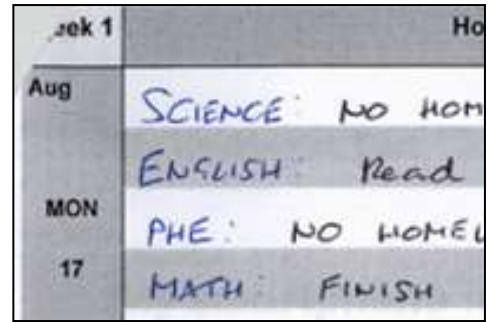
夏休み中に私は、Mr Jonesが保護者説明会で皆様にも



お勧めしていた、Catherine Steiner-Adairが子供のテクノロジー仕様についての書いた、“The Big Disconnect”を読みました。この本は教育の瀬門下にとっても、保護者にとっても非常に興味深いものです。この問題に関連して、新年度の2日目に9・10年生は2015-2016年度の準備講座を受けたのですが、その中で休み中のWashington Post誌の記事を読みまし

た。その記事の題名がすべてを物語っていると思いますが、“My smartphone is making me dumb!”(スマホが私をだめにする!)というものでした。この記事は、アメリカの大学生の学習習慣についてRice大学が行った研究を基に書かれた真剣なものなのですが、これによると、スマートホンは、明確な目的を持って使用された場合にのみ教育を補助するというのです。教師や教授によって使用法を的確に指示されなかった大学生はスマホを教育・学習

に関わりのない用途、例えばメールやソーシャルメディアの閲覧



に使用してしまったというのです。上記の本も新聞記事も、子供たちがテクノロジー、特に本当にスマートホンが宿題をする上で必要なかを確認することの大切さを気付かせてくれているのではないのでしょうか。

最後に、生徒の靴とズボンに関する校則の変更に対して皆様のご理解とご支援に感謝いたします。特に靴の色については学校としても校則に沿った指導をすでに行っています。また、学年度中に生じるご質問やご懸念点については、どうぞご遠慮なく私にお知らせくださいますようお願いいたします。

Mark Cowe
Secondary School Principal



References:

Marzano, R & Pickering D.J. (2007), *Educational Leadership*. ASCD
Protheroe N (2009) Good Homework Policy. *National Association of Elementary School Principals Magazine* NAESP
<http://wapo.st/1H858oK> (23rd July 2015)

募集: 代用教員

弊校では教員欠勤時に小学部及び・又は中高等部の代用教員として単発で勤務して下さる方を募集しています。要件は以下の通りです:

- ネイティブ又はネイティブ並の英語力
- 教育関連の資格・学位(例: 教育学士)及び・又はTEFL/TESOL資格
- 英語環境での指導経験
- 適切なビザ(ビザのスポンサーは行いません)

ご自身、お知り合いで上記資格を満たし、本件に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら下記アドレス宛にメールでお申し込みください。

info@kist.ed.jp

詳細は下記ページよりご確認ください:

<http://www.kist.ed.jp/node/194>

MYPニュース

MYPの授業が再開しました

KISTの中等教育課程の生徒達が新学年度を始める準備万端で学校に戻ってきました。授業は順調に進んでおり、すべてのMYP生は忙しく授業で取り扱われる概念と格闘しています。



MYPの教科群



Mr Rossが6年生に初めてのMYP評価プロセスについて説明中

MYPポートフォリオ

すべてのMYP生 - 6年から10年生まで - は自身の最も良く出来た学習サンプルをまとめたポートフォリオを作成・保管します。これにより、生徒達は自身の学習成果を収集し、一年間の学習成果を振り返ることが出来ます。ポートフォリオはIBの学習者像とその要素を中心にまとめられます。それぞれの生徒が自身の資質や能力、各教科の学習を最も良く表している作品・課題サンプルを集めます。また、授業以外での貢献・活動を記録するため、MYPで行う奉仕活動の詳細文書をまとめるように指導を受けます。



10年生の生徒達が数学の演習問題を解いているところ

MYP保護者説明会

MYPを新たに学ぶ生徒の保護者を対象にMYPの説明会を開催いたします。当日はMYPコーディネーターのRob WhiteがMYPの特徴と、MYPを学ぶお子さんたちのサポート方法などをご説明いたします。説明会は**9月14日(月)午後6:00からKISTの Multipurpose Room(多目的室)**で開催いたします。

MYPの主要要素及び関連する概念

MYPの各教科には、主要要素及び関連する概念が核として存在します。MYPの各教科の専門家が、それぞれの分野で生徒達に必ず学んでもらいたい3・4つの必須概念を定義しています。これらの概念は様々な教科や状況の壁を越えて、普遍的な価値を持つものです。例えば、**コミュニケーション**は複数の教科の主要要素です。この重要性は言うまでもないことでしょう。繰り返し、これら普遍的な概念を強調されることによって、生徒達はこれら概念と自身の学習とのつながりを見出し、深い理解を育みます。これら主要要素に加え、各教科には普遍的でありながらも、より教科分野に特化した「関連する概念」を有します。例えば、**調整や精練**は保健体育で強調される概念です。保健体育を履修する生徒は、体勢やある難形から一連の動作への微調整を意識することによって新しい技術の習得に役立つのです。

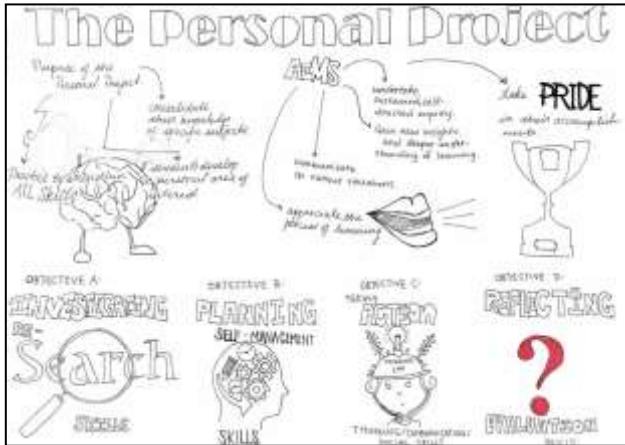


8年生が個人と社会のクラスで主要要素及び関連する要素について探求中

前ページの続き

MYPパーソナルプロジェクト

最後に、MYP 5年目の生徒達はパーソナルプロジェクトの準備を始めています。この個人が独立して行う長期プロジェクトでは、10年生の各生徒が関心を持ち、さらに奥深く理解したい内容について探求を行います。生徒達は現在のプロジェクトの過程における必須要素について学んでいるところです。9月の終わりまでには、一年間を通してそれぞれのプロジェクトの個別指導・監督を担当するMYP教員が決定します。



視覚的ノートの一例。ここでは生徒達がパーソナルプロジェクトについて考えています。



MYP学習の集大成となるパーソナルプロジェクトの目的や要件についてのスケッチ(ノート)。

Robert White
MYP Coordinator



PYPニュース



Attitude?
What Attitude?

態度 (Attitudes)

皆さん、学校にお帰りなさい。お休み中はゆっくり休み、且つ有意義に過ごされたことと思います。子供たちは今年、これまでの新記録とも言える速さで新しい環境に馴染んだようで、すでに今年度の「準備万端」なようです。これら非常に意欲的な生徒達に対し、IBはどのように行動すべきか、という指針を設けています。これまで私が寄稿した文章では、より一般的でなじみのある、KISTで育成したい生徒の姿を表した学習者像(Learner Profiles)についてご説明していました。今回はこれまであまり触れられてこなかった、けれど同じように重要な態度(Attitudes)についてお話ししたいと思います。

これら「態度」にはIB文書に定められた、望ましいとされる学習、環境及び人に対する価値観、信条や感情を表しています。それら望ましい態度は以下のとおりです：

感謝	共感
献身	熱意
自信	独立心
協力・協調性	誠実さ
創造性	尊敬
好奇心	寛容

上記は生徒・友人同士、教師、私たちを取り巻くコミュニティ、生徒・友人同士、教師との関わり方やコミュニケーションに必須の要素です。これらは学習への向き合い方や感じ方にも反映されます。これら望ましい態度は学習者像と類似しており、実際に学習者像を詳細に説明する際にもこれら用語が用いられています。これらは学習者像をより理解し、自身と世界とのかかわりを表すのを助けてくれる表現(用語)なのです。

先程もお話したように、これらについてはあまり頻繁に触られることはありませんが、今年エレメンタリーでは、ミッションにもあるとおり、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成するために、態度にもこれまでより焦点を当てていきたいと考えています。是非皆さんにも、保護者、生徒、教師、経営者として、これら資質を身に付け、コミュニティ内で共有するための

方法について考えて頂けたらと願っております。最後に、もし、毎日の生活においてこれら態度で世界、学習、人間同士と関わることができるなら、私たちは全員、大いなる成功者となることができますように。

Clay M. Bradley
PYP Coordinator



KISTでの協力関係の重要性

KIST信条 #4:

教育は、生徒、保護者、学校の相互の信頼と協力によって成り立つものである。

Pearson (2014) の最新の研究で、PISAの試験結果は子供の教育へのすべての関係者の関与の度合いに大きく関わっているという発表がなされました。この研究結果の一部は以下の通りです:

- 「生徒の成績に対する保護者の期待には大きな意味があります。保護者の期待値が高い場合、生徒のやる気や忍耐力もそれにつられて高くなる傾向にあり、より良い成績につながりました」(p. 8)。
- 成功する学校は、強固なりテラシー及び算数・数学力を発達させるためのプログラムを有し、進歩のための明確な期待値を設け、生徒及び教員がこれら目標への進捗を測るための信頼性のあるシステムを有している。
- **学習の助けとなる文化・環境を創るためにはコミュニティすべての努力が必要である。**

KISTではミッションである「質の高い教育と安全で人を育む環境」を提供し、これを維持するためにコミュニティからの強い協力が得られていることを非常に幸運なことと思っております。KISTを様々な方法でサポートして下さるコミュニティメンバーの皆様に感謝いたします。

コミュニティメンバー間での前向きで積極的な会話への参加は、子供たちにとって健康的な環境を維持する上で非常に重要な要素です。子供たちが意識していないときであっても、私たち大人は自身の、そして他の子供たちの模範です。さらに、私たちはコミュニティ内の他のメンバーの模範でもあるのです、私たちの言動はコミュニティの大人にも影響を与えるのです。

KISTは50カ国以上からのメンバーを有する活気あるインターナショナルコミュニティです、私たちはこの多様性を誇らしく思います。同時に私たちそれぞれがKISTコミュニティの内の他者とは異なる文化や価値観を有する個人でもあります。そのため、時にはコミュニティの他者との意見が異なったり、他のメンバーの下した決定に同意できなかつたりすることもあるでしょう。

コミュニティすべてのメンバーと健康的な関係を築き、それを維持することは努力を要します。しかし、この努力が子供たちにとってかけがえのない大きな利益をもたらすのです。もし、あなたの意見と異なり、同意できないような問題が生じたときは、以下を心がけて頂けますようお願いいたします:

- ✓ 子供たちにとって、健康的なKISTコミュニティがいかに重要かを考える
- ✓ 考え方の相違について関係者と協議・共有する場合は、前向きなアプローチを使用する

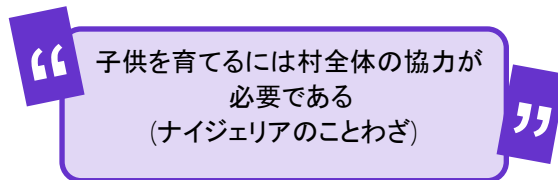


<http://www.neocate.com/images/uploads/Images/community%20village.jpg>

- ✓ 自身のある状況への反応・返答がKIST生やKISTコミュニティのメンバーを含む他者にどのような影響を与えるか常に念頭に置く

考え方や価値観の相違についてのご意見や、学校の決定・行動等についてのご懸念点がおありの場合、お申し出いただければ、問題についての協議を行い、協力して問題解決を目指したいと思っております。また、私個人としてお手伝いできることがございましたら、お電話又はメールで、jeffrey.jones@kist.ed.jp宛てにご連絡ください。

KIST生を最大限にサポートするためにご協力くださっていることに感謝申し上げます。



Jeffrey Jones
Head of School

The Economist Intelligence Unit (2014). *The learning curve – education for skills and life. 2014 Report.* London: Pearson.

TAKE JUST A
MOMENT AND
REMEMBER HOW
lucky
YOU ARE



ついていると思ったら、
ぜひ抽選に参加しましょう!

下記リンクをクリックして、アンケートに答え、IBロゴ入りキャリーバックが当たる抽選に参加しましょう。

1家族1回のみ。抽選日は2015年9月30日です。

Good luck! ☺

[エントリー参加はこちらをクリック](#)

11年生の熱海宿泊合宿

9月4日から5日まで私たち11年生は学習スキルの習得と、クラスメートをより良く知り、互いに良く知り合うため、熱海での宿泊合宿に参加しました。ものすごく簡単に言うと、この合宿は楽しさと真剣さが7:3割合で混ぜり合った行事でした。これは、もうすぐやってくるDPの恐怖に直面しなければならぬ私たちにはとてもふさわしい行事でした。

一日目(Akira)

初日の大半はグループでの活動、特に競争で行うチームビルディングや、先生方が主導するストレス解消の活動に費やされました。

チームビルディング

2時間のバス旅の後、宿泊先に到着し、部屋に落ち着いてから、まず最初の活動-Mr Roseが企画したチームビルディングに参加しま



した。この活動は成功するためには生徒間の協力が不可欠な、ほぼ不可能に思われる2つの課題を解決するというものでした。最初の課題は、自由落下するバレーボールを効果的に「キャッチする」為の装置を大きな一枚の紙、数本の割り箸、輪ゴムとストローを使い、10分以下で作る事でした。接着剤などは提供されませんでした。意見を出し合い、妥協・同意し合い、協力して装置を作ることはこの活動に不可のスキルでした。最後に、一つの装置がこの難題を達成しました。

ストレス解消

ビュッフェの昼食を終えた後、生徒達はMrs JusticeとMr Roseによる、DP生活には不可欠であるストレス解消のための講座に



参加し、これを実践してみました。Mrs Justiceの瞑想と集中講座は精神的なストレスを取り除き、リラックスするのに非常に有効でした。また、小さな物体(小石)の細かな特徴を少しの間じっと観察することで、集中力が著しく上がるということを学びました。この活動の後で、殆どの生徒達はこの小石に愛着が湧いてしまい、合宿の終わりまでこの小石を持ち歩いていました。私自身は、単純な自由形の5分周期の瞑想で状態が大きく向上しました: これは2時間の昼寝に相当する効果です。多くの生徒はあまりにリラックスしたので、数分で眠りに落ちてしまったほどです。

ローテーション活動

午後には12名のグループで、批評的読書の講座やアイスクリーム作りを行いました。批評的読書講座では、以下の4ステップ: 質問、アンダーライン、書き換え、暗誦、を踏むことで文書をより深く理解するための方法を学びました。コース学習の殆どは教科書を中心に行うため、教科書の内容を理解することは非常に重要です。生徒達がMr Nakadeの用意した材料を使って自由に好きなアイスクリームを作れるこちらは、活動の「楽しい」部分でした。どろどろのアイスクリームが固まるまで袋を放り合うのはとても楽しく、自分で作ったアイスを食べるのもめったにない経験でした。



熱海での最初の夜には生徒たちが親しくなるためのさらなる楽しい活動が待ち受けていました。

夜ならではのゲーム: Silent Ninja や Bollywood Dance Offなど、どちらもその名の通り、楽しく、ドタバタしたものでした。一日の締めくくりは宿泊施設の屋上に設けられた温泉と、次の日のためのサンドイッチの準備でした。



二日目(Atharva) 試験スキル講座と 来宮神社訪問

楽しいイベント目白押しの合宿二日目は朝6:30に始まりました。おいしい朝ごはんの後、合宿中の講座の中で

もっとも情報量の多い、一時間にわたる試験スキル講座に参加しました。このセッションは途中で中断され、生徒たちの頭をすっきりさせるため、熱海の有名な神社を訪問することになりました。生徒や先生方が合宿中最も景色のよい場所に近づくと、とても親切で知識豊富な神職の方に迎えていただき、非常に楽しく神社の由来や、神道の神々について話していただきました。その後ホテルに戻り、試験スキル講座の後半を受けました。



前ページの続き

熱海海岸

その後、荷造りをし、海岸に向かいました。これはこの合宿中で最も楽しかったことの一つでした。お天気に恵まれたなか、程



よい時間に海岸に着くと、自分たちで作ったサンドイッチを食べ、海岸で色々な活動を行いました。自分達で作った昼食を誇らしい気分で食べた後、最初の活動の砂の城造りに取り掛かりました。私たちが6人グループに分けられ、1時間の期限内でそれぞれ素晴らしいお城を造っていると、周囲から生徒たちの歓声が聞こえてきました。生徒たちは作業を分担し、効率よく行動しました。あちこちで創造的なアイデアが見られ、そのうちのいくつかは国際理解、動物に対する認識・配慮、有名な建築、空想上の城や食べ物を思い起こさせました。お濠のような特徴的な構造ははっきりと表現されていました。全体として、この城造りは大成功で、審判役も優勝者を決めるのに困ってしまうほどでした。

それから、気がつくと、合宿の参加者全員が海岸の大きなドッジボールコートで楽しく、仲良くドッジボールの試合をしていました。クラス別や生徒対先生の試合をする生徒たちと先生たちの表情には心地よい興奮が広がっていました。活動は楽しく友好的な戦いと先生たちから生徒たちへのアイスクリームのご褒美で幕を下ろしました。そして楽しかった時間は終わり、ここで得た知識を活かすために現実世界に戻る事になりました。

帰りの3時間のバス移動は、笑ったり、楽しく過ごしたりしているうちにあっという間に終わりました。

まとめ

この合宿は、特に卒業へのカウントダウンを迎え、その後は離れ離れになる私たちにとって、とても思い出深いものでした。この旅行中の楽しく、役立つ活動は私たちの担任の先生方が企画してくださったものです。このような素敵な機会を提供してくださった先生方に感謝します。私たちはこの2日間の熱海合宿でお互いの友情を深めるとともに、これからの2年間は将来的な成功のためにも各自が真剣に取り組まなければならないということに気づかされました。



Staff 10!

●●●●●●●●●●
今月のStaff 10!では、2014年にセカンダリースクールのELSインストラクターとしてKISTに加わった**Campbell Boyd**をご紹介します。本年度はELSの職務に加えて、英語の指導を行い、更にセカンダリーのELSコーディネータも勤めます。



Mr Boyd が「クールな」サングラス姿で、涼しい日陰を満喫中。

● 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷は北アイルランドの田舎町にある人口150人程度の村です。古いきたりに従い、村にパブを開くことは許可されておらず、現在でもパブは一軒もありません。

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

シドニーのFreshwater Beachです。泳いだり、サーフィンをしたりするのにすばらしいところで、私はこのビーチで結婚式を挙げました。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

(1980 に亡くなるまでAC/DCのリードボーカルをつとめていた)Bon Scottです。彼の人生観のうち、自分の人生に当てはめられるものがあればそれを活かしたいです。傾聴に値する良い話が一つ二つはあると思います。

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

抜群の方向感覚を持っており、道に迷ったり、持ち物をなくすことはめったにありません。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

東京の込み合った通勤電車の中ではIpodでライブアルバムをかけて、ヘッドホンで聞いています。込み合った電車でもみくちやにされながら、目を閉じて、ここはライブ会場だと自分に言い聞かせます。これはとても有効で、本当にライブに来ていると錯覚します。事実、先週はライターをマイクにみたてて大声で歌っていたため、横浜からの(6.18)電車から下ろされてしまいました。

● あなたにとって一番の宝物は？

ものすごくありがちですが、私の新しい家族(妻と子供 - 小さなGeorge)です。

● ご自分を言葉で表現すると？

「進路を保て」(しっかりと舵を取れ)。

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

多分それはないと思います。あるとしたら、学校や大学でもっとまじめに勉強することでしょうか、でも、その代償はなんでしょう？

● 自分を高めるために今やっていることは？

日本語を学ぶためのあくなき戦いです。時には勝利を収めたと思うときがありますが、そのほかの時は…

● ファンに一言お願いします。

心の奥深くでは皆、善悪についての認識があると思います。常に善(正しいと思うこと)を行う努力をすることです。

図書室ニュース

皆さん、お帰りなさい! 夏休み中にたくさんのすばらしい本を楽しんでくれた事と思います! KIST図書チームから2015-2016年度のわくわくするニュースをお伝えします。

新しいLMC図書アシスタント、Ms Erika Ishibashi

Ms Erikaについてのトリビアをいくつか。Ms Erikaは東京生まれ、東京育ちの4分の1オーストラリアの血が流れている日本人で、東京で生まれ育ちました。そのため、東京に非常な愛着を持っていますが、オーストラリアを第2の故郷と思っています。音楽を聴いたり、映画を見たり、写真を撮ったり、本を読んだり、クッキーを焼いたり、ビデオゲームをしたりすることを楽しんでいます。聖心インターナショナルスクールと上智大学の卒業生です。以前はライティングセンターで、生徒のライティング課題のサポートを行っていました。Ms ErikaはLMCの新たな“笑顔”担当として受付で本や資料探しのサポートをしてくれます。新たにコミュニティに加わったMs Erikaを歓迎しましょう!



予定される図書イベント

今年はたくさんのイベントが予定されています。まずは**DEAR** が帰ってきます! 11月の一ヶ月間続くこのイベントでは、11月3日に、校庭で本の登場人物に扮した仮装パレードも行われます。エレメンタリーの生徒と先生たちはお気に入りの登場人になってパレードに参加できます。どうです、参加したくなってきませんか?今回は先生たちに加え、4・5年生にも参加資格が与えられます。新しくなった仮装コンテストで名声と幸運を目指しましょう!下記カテゴリーの仮装を募集しています-- Best Twin version、Best Triplet awardees、先生向けのBest in Book Character Costume/Participationで入賞した先生たちは次号のCometに登場します。詳細は図書室のポスターを見てください。

November 2015						
Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

○ PARADE ● DEAR TIMES

この取り組みに参加して欲しいです。全校・全員です:エレメンタリー、セカンダリーの生徒達、先生に保護者-もちろん校長先生も例外ではありません。全員で”Drop Everything And Read!”

11月の残りは、週1回: “Time to Drop Everything And Read!” (“全てを止めて読書しよう”)という放送が流れます。何をしようとも、この放送が流れたら本、雑誌、新聞を手にとって読み始めましょう。私たちは全校で



LMCではこのイベントを促進するために、セカンダリーから**DEAR** ポスターモデルを再び募集します。興味のある生徒は、Service(奉仕)やCASポイントを獲得するため、メールでMr Andiに連絡してください。

サクラメダル読書プログラム



KIST 図書室は2015-2016年度もサクラメダルプログラムに参加します。今年の課題図書はもうすぐ到着します。今年も素晴らしい課題図書皆さんに紹介できるのを楽しみにしています。是非課題図書を読んで、お気に入り投票してください。投票は10月に開始します。(DEARのために

借りるのにちょうどいいかもしれませんよ?)

画家、作家、映像作家募集! サクラメダル書籍の作者と挿絵画家だけが勝者ではありません!生徒達は学年度を通して、美術、エッセイ、トレーラー制作の技術や創造性を発揮する機会を与えられます。詳細はMr Andi、Ms Erika、またはMs Leslieに連絡してください。

Q: Steg教授が2015年度のサクラメダル課題図書、*Fortunately, The Milk?** で Really Good Moves Around in Time Machine の修理に使った宝石は何かを覚えていますか?このような質問に対する知識を争いたい4・5年生はサクラメダルBook Bowl チームに参加しませんか? 昨年、KIST 図書室は始めてbook bowlに参加し、2位という素晴らしい成績を達成しました! チームの皆さん、おめでとう!どうですか、興味が出てきましたか?さらにチームメンバーはサクラメダルの課題図書を最初に読む権利を与えられます。是非サクラメダルクラブに参加申し込みをしてください!

(*A: エメラルド)

図書室の新データベース及び資料

残念ながら図書室で一日中過ごすことは出来ません。でも、深夜に目が覚めてものすごく気になることや、是非答えを知りたいことがあったとき、KIST図書室が力になれます。もちろん、司書はすでに就寝中かもしれませんがMoodleからオンライン資料へ何時でもアクセスできます!

前ページの続き

セカンダリーの生徒で、リサーチをしなければならない時は？
どこの誰が編集しかもわからないWikipediaで調べるより、学校のリサーチデータベースを活用しませんかMoodleアカウントにログインして、Library Media Centerページから Britannica School Edition、Destiny WebPath Express、Opposing Viewpoints、Cengage Learning や BrainPopに簡単にアクセスできます。今学年度からClassroom Video on Demand、Science Online、Bloom's Literature と Infobase Ebooksも新たに加わりました。

エレメンタリーの生徒にもリサーチやコンピュータのスキルは非常に重要です！エレメンタリーの生徒たちには子供向けの Britannica School Edition や Kids Infobitsを提供しています。また、最新のオンライン資料、World Almanac for Kidsも是非見てみてください。



インターネットにアクセスする前に、是非、今号に掲載されているインターネットの安全性についてのMr Timの記事も読んでくださいね!

KIST Library Team

2015入学説明会

2016 - 2017年度向け

KISTでは2016 - 2017年度入学希望者を対象とした入学説明会を行います。

アドミニスタフおよび教師が直接皆さまからの様々な質問(入学手続き、カリキュラム、大学進学、その他学校生活全般について)に直接お答えいたします。

また、学校施設の見学もできます。

日時:

October 17, 2015 (Saturday)

セッションは2部制です:

- (1) English: 9:45 a.m. - 12:00 p.m.
- (2) Japanese: 1:15 p.m. - 3:30 p.m.

受付締切は:

October 16, 2015 (Friday)

要予約です!

www.kist.ed.jp

インターネットの安全について

皆さんこんにちは、K2のELSインストラクター、G2のLEAPインストラクター、エレメンタリーICTインテグレーション及びサポートコーディネーター、そして保護者でもあるMr Timです。

モバイル機器が発達し、どこでもコンピュータが使用できる現代では、私たち大人が、子供たちや青少年がバーチャル世界で何をしているかを理解し、監視することが必要です。コミュニケーションのための回線を空けておくことが、子供たちに安全なネット環境を確保し、責任あるネット市民を育てるための鍵となるのです。

以下はNet Safe Utahプロジェクトが提供するいくつかのヒントです。

- 何かうまいかなかったり、怖かったりしたときに安心して相談に来ることができる環境を整える。
- インターネットの危険性について正直に話し合う。
- 個人情報と、それを守らなければならない理由について子供たちに理解させる。
- オンラインの活動についてお互いに共有する。
- いつでも必ず適用するはっきりとした単純なルールを決める。
- 閲覧しても大丈夫なウェブサイトと、駄目なものをはっきりさせる。
- オンライン上での適切な態度について話し合う。

保護者の方を対象に、Net Safe Utahが提供するより詳細なアニメーションビデオをご覧下さることをお勧めいたします。英語、アラビア語、ボスニア語、ビルマ語、中国語、韓国語、ナバホ語、ソマリ語、スペイン語、トンガ語、ベトナム語でご覧いただけます。



こちらをクリック: http://www.netsafeutah.org/parents/parent_videos.html

その後、こちらをクリック: General. For Parents, Teachers, and Administrators. Information about NetSafe Utah (2分 40秒)

netsafeutah.org のウェブサイトには他にもいくつかネットの安全についてのアニメーションビデオがあります。お子さんとこれらをご覧になる場合は、事前にお子様が見るのにふさわしいものであるかご確認ください。KIST図書室でもテクノロジー関連の資料をご提供しています。

Timothy Smith
ICT Integration Support (Elementary)



保健便り

蚊に媒介される感染症

昨年2014年8月末、日本でデング熱感染者が多くみられたことを憶えているだろうか。今年は感染者が目立った報道はされておらず、東京都内でデング熱ハイリスク地点とされる場所は今のところ(8月26日現在)ありません。

蚊に媒介される感染症はデング熱だけではなく、その他さまざまな感染症があり、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。日本で発生、あるいは持ち込まれる可能性の高い疾患としては、ウエストナイル熱、チクングニア熱、デング熱、日本脳炎、マラリアの5疾患があげられます。これら5疾患の主な特徴は下記の表のとおりです。



疾患名	媒介蚊 (感染経路)	発生地域	潜伏期間	主な症状	備考
<u>ウエストナイル熱</u>	アカイエカ、チカイエカ、ヒトスジシマカなど (鳥→蚊→人)	アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、米国など	2~6日	発熱、頭痛、背部痛、筋肉痛、筋力低下、食欲不振、発しん	日本国内での感染例は認められていないが、近年まで報告のなかったヨーロッパやアメリカなど西半球に1990年代中頃から流行が発生している。
<u>チクングニア熱</u>	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (人など→蚊→人)	アフリカ、南アジア、東南アジア	3~12日 (多くは3~7日)	急性の発熱と関節痛、発しん	日本国内での感染、流行はないが、海外で感染した輸入症例が報告されている。
<u>デング熱</u>	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (人→蚊→人)	東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国	2~15日 (多くは3~7日)	発熱で始まり、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛	非致死性の熱性疾患であるデング熱と、重症型のデング出血熱やデングショック症候群の2つの病態がある。
<u>日本脳炎</u>	コガタアカイエカ (豚→蚊→人)	日本、中国、東南アジア、南アジア	6~16日	発熱、頭痛、吐き気、おう吐、めまい、意識障害	感染しても日本脳炎を発病するのは100~1,000人に1人程度であり、大多数は無症状に終わる。
<u>マラリア</u>	ハマダラカ (人→蚊→人)	東南アジア、アフリカ、中南米	7~40日	発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛	マラリア原虫の種類によって、熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリアに分類される。これらのうちもっとも危険なのが熱帯熱マラリアで、 治療が遅れると死に至ることがある。

(参考:東京都感染症情報センター <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/mosquito/>)

なかでも熱帯熱マラリアの重症度は高く、死に至ることがあり、流行地域へ旅行する際は注意が必要です。流行地での予防は、肌の露出を少なくし、防虫剤を適宜使用するなど、蚊にさされないように注意することが大切です。マラリアの媒介蚊ハマダラカは夜に吸血する特徴がありますので特に夜間帯は気をつけて下さい。(ちなみに、デング熱の媒介蚊ネッタイシマカは昼に吸血します。)またマラリアに関しては予防薬があるので、旅行前に内服すると良いでしょう。


Makiko Whittaker
School Nurse



セカンダリーSRC...

昨年度はSRC史上最高の一年でしたが、毎年SRCの活動内容が向上しているため、これはある意味当然のことではありません。学校経営陣の助力もあり、昨年度は3年前から申請していた生徒用のプリンターをやっと設置することが出来ました。また、生徒基金が設立されたため、生徒基金から、生徒が独自に企画したイベントの助成を行うことが可能になりました。SRCが促進した生徒主導のクラブ活動が始動し、これにより生徒自身が企画、運営する生徒のためのクラブ活動が提供できるようになりました。更にSRCが達成した事柄をいくつか挙げると：SRC直下の委員会、芸術委員会と、体育委員会の2つの設立、KISTalkイベントの開催、Habitat for Humanityと協力したカンボジア旅行の資金調達活動の実施、かさのレンタルシステムの確立、冬のコンサートの企画運営、2ヶ国語対応可能なメンバーによるKISTivalのインフォメーションブースの運営などがあります。

しかしながら、同時に多くの未完成プロジェクトや詰め切れなかった企画もあります。今年度のSRCが引き継ぐべ



き遺産は大きなものですが、9月4日に開かれた最初の委員会で、私たちはこの大きな船を順調に遥かな目標に向けて操船する準備が出来ていると確信できました。新しいメンバーとともに今期のSRCを運営することを楽しみにしているとともに、KISTのセカンダリー生全員にとって記憶に残る素晴らしい一年にしたいと願っています。生徒の皆さん、クラスの代表委員に皆さんの意見や考えを是非伝えてください。また、LMCの外に皆さんの意見を投書するための「投書箱」も設けています。

今年度のメンバーは：Parsh (G6A)、Kishore (G6B)、Alia (G7A)、Aditya (G7B)、Ji Hye (G8A)、Nimit (G8B)、Alice Chae Hyun (G9A)、Krisha (G9B)、Nikita (G10A)、Sara (G10B)、Amartya (G11A)、Hana (G11B)、Pranita (G12A)、Saya (G12B)、Angela (会長、G12B)、Rachel (副会長、G10B)、Motoi (会計、G12B)、Nina (書記、G11A) と Raj (広報、G12B) です。

Executive Officers 2015-2016

会長



Angela (G12B)

副会長



Rachel (G10B)

会計



Motoi (G12B)

書記



Nina (G11A)

広報



Raj (G12B)



2014-2015年度のSRCメンバーの努力と貢献に特に感謝を奉げます。

慶応義塾大学でのサマーインターンシップ体験

昨春ディプロマ・プログラムの科目選択をするに当たり、私は大学や将来についても考えました。私は生命科学がとても好きなので、科学が実生活に応用されている事を実感できるようなサマープログラムを探しました。日本の教育機関はめったにこのような機会を高校生、特にインターナショナルスクールに在籍している学生には提供してくれませんが、私は幸運にも日本の一流大学の一つである慶応大学のメディカルサマーインターンシップを見つけることが出来ました。KISTのカレッジガイダンスカウンセラー、Mrs Okudeのご協力を得て、慶応大学のインタラクティブメディア研究室での三週間の集中インターンシップに応募し、受け入れていただくことが出来ました。

慶応大学インタラクティブメディア研究室では拡張現実やヒューマンインターフェイスなど、情報テクノロジーの応用について研究を行っています。学生たちはここで最先端技術を用い、体験シミュレーションや発想の概念化を行っています。ここでの過去の研究プロジェクトには、ターザンがロープを伝って見たような光景をシミュレーションで追体験できる「バーチャルロープスライダー」、タブレットをかざした物体の断面のMRI画像を表示する「バーチャルスライサー」、人の表情を感知できる「表情認識」眼鏡などがあります。私はこのような素晴らしいチームと一緒に働くことに心が躍りました。

私は指導教授や慶応大生と共に、慶応大学病院との共同研究プロジェクトである医療視線追尾プロジェクトに参加しました。私たちの目的は手術の現場に視線追尾ソフトを導入することです。これにより医療のパフォーマンスが大きく向上すると私たちは確信しています。外科医の視点からの手術記録画像は医師が手術手技を振り返り、向上させることに貢献するとともに、実習を開始した医学部生にとっても役立つものとなります。私の主な役割はこのソフト使用に特化した携帯用視線追尾ヘッドピースの試作品開発でした。これはとても困難でありな

がらもわくわくするプロセスでした。私は必死で新しい概念を学び、上級の先進的なソフトを使用し、短い期間で製品のデザインを一から製作しました。大学で働くことで最新、最上の機器を使用し、計画した実験を行うことが出来ましたが、同時に自由な環境に置かれたが故に自ら主導権をとり、自己管理をすることが必要でした。教授や院生・学部生も必要に応じてアドバイスをしてくれましたが、基本的には自分の判断で仕事を進めました。夜遅くまで必死で実験の準備をしたり、リサーチをまとめたりした経験から自己管理の大切さを痛感しました。

このインターンシップ期間中の最も記憶に残ったことの一つに、慶応大学病院の乳房切除手術中に実地で行われた視線追尾試験があります。私は幸運にも乳房切除術をその場で見学し、また慶応の医学研究室の研究者の方々にお会いする機会を得ました。研究室を訪問し、最新の研究についてのお話に参加させて頂くことで、再生医療や外科学への大きな興味が湧きました。それまで、私はこれらの医療分野がこれほど魅力的な分野であると気付かずにいたのです。



東京都未来館でのHana

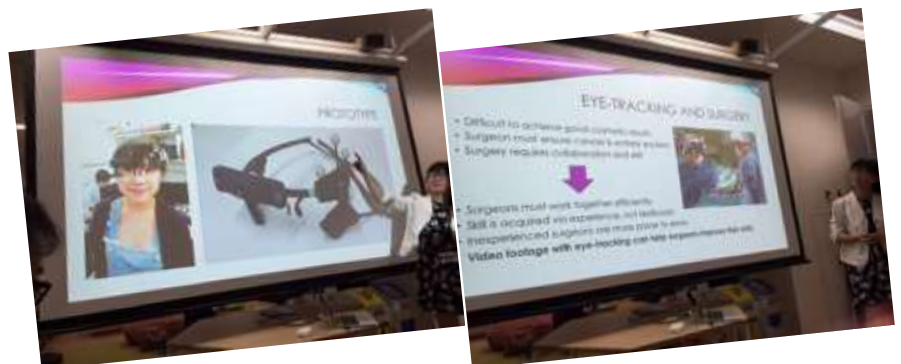
過去に私のような一学生であった医師の皆さんとお話したことも、私が医学や生化学の道への関心を引き出してくれました。

全くはじめての環境で仕事をするこの難しさや、研究室までの毎日4時間の往復通勤という大変なこともありましたが、未来館研究室で慶応大学の教授陣や院生に対して完成した試作品と研究結果を発表したときの達成感は何にも例えようがないものでした。この機会を私に与えるためにお力添えをいただいた皆さんに感謝しています。このインターンシップは私にとって一生忘れることの出来ないかけがえのないものになりました。

Hana (G11B)



HanaとMihir(過去のKIST生)、指導教授、指導担当者と一緒に



未来館でのHanaの最終発表

カレッジガイダンスニュース

2015年度卒業生の国別進学先

- G12在学中に大学に出願した生徒: 24名 (2015年度卒業生29名のうち)
- 2015秋から大学に入学する生徒: 23名
米国: 10; カナダ: 3, 英国: 4; EU: 1; 日本: 3; 香港: 1
- 卒業後に大学に出願するまたはギャップイヤーを選択した生徒: 6名

2015年度卒業生の83%が12年生在籍中に大学に出願しました。そのうちの95%が、合格した複数の大学のなかからひとつを選び、今年の秋(8月末から10月にかけて)大学に入学します。

上の表にあるとおり、今年の卒業生の進学先としては、アメリカが最も多く、次いで英国、日本、カナダとなっています。アジア太平洋地域では入学時期が異なるため(たとえばオーストラリア、韓国は3月、日本は4月)KISTを卒業してから大学に出願する生徒もいます。2015年度卒業生の合格および進学先大学の添付の最新リストをご覧ください。

芝浦工業大学での夏のインターンシップ

今年の夏、KISTは芝浦工業大学(SIT)から特別インターンシップ参加選考への応募のご案内をいただき、当時の10年生(現11年生) Akira (G11A)、Amartya (G11A)、Rithvik (G11B) の3名が応募し、芝浦工大理工学部の特別プログラムに参加しました。彼らは芝浦工大の有明キャンパスと埼玉キャンパスで2週間過ごし、大学研究室で担当の教授や大学生と研究プロジェクトに取り組みました。インターンシップ期間の最後には各生徒が自分の行ったプロジェクトについての発表し、修了書を授与されました。Akira、



Akira, Amartya, Rithvik

Amartya, Rithvik おめでとう!



慶應大学での夏のインターンシップ

今年の7月、Hana (G11B) は、慶應大学大学院メディアデザイン研究所でのインターンシップに参加しました。慶應大学矢上キャンパスの理工学部の研究室と信濃町の慶應病院で医学関連のプロジェクトに取り組み、手術の際に、執刀外科医の目の動きを調べるためのウェアラブルデバイスのプロトタイプを作成しました。Hana、おめでとう! 詳しくはこのニューズレターに載っている彼女のレポートをご覧ください。

Mrs Okudeアメリカの大学訪問

この夏 Mrs Okudeは、2015 Overseas Association for College Admission Counseling (OACAC) に参加しました。これは、アメリカ以外の国にある高校の大学進学カウンセラーと世界中の大学のアドミッション担当者が一同に会する年一回の大会です。今

年はオレゴン大学で開催され、カウンセラーとアドミッション担当者役1300人が参加し、大学入学に関する最新情報を交換し、交流を深めました。大会のあと、彼女はシカゴに移動し、シカゴ近辺の大学からの招待を受けた海外の他の学校の17人のカウンセラーとともにthe Chicagoland Counselor Tourに参加しました。Columbia College Chicago, DePaul University, Loyola University Chicago, Northwestern University, School of the Art Institute of Chicago, University of Chicago, University of Illinois at Chicago を訪問し、大学内を見学したり、教授陣やアドミッション担当者、学生に会って話をしたり、会食したりしました。



新たにUniversity Guidance CalendarがSharePointに導入されまた

今年度、新たに大学関連イベントカレンダー **University Guidance Calendar** がSharePointに導入されました。現在のところ、全校生徒の保護者および9年生から12年生の生徒がアクセスできます。ぜひ頻繁にアクセスして、最新情報をチェックしてください!

今後のイベント

KIST LMCで開催される大学説明会

- Friday, September 4, 3:45pm, Amherst, Middlebury, Macalester and Davidson, USA
- Tuesday, September 8, 3:45pm, Hong Kong University of Science and Technology, Hong Kong
- Thursday, September 10, 3:45pm, UC San Diego, U Illinois at Chicago, Columbia College Chicago, Loyola U, Loyola Marymount, Xavier, USA, IE U, Spain, Yale/NUS, Singapore
- Monday, September 14, 2:45pm, Goldsmiths, U of London, UK
- Tuesday, September 15, 3:45pm, Chinese University of Hong Kong, Hong Kong
- Tuesday, October 6, 3:45pm, 国際基督教大学(ICU)日本

東京近辺での大学フェア(公開イベント)

- Saturday, September 12, 11am-6pm, Education USA アメリカ留学 EXPO by US Embassy at Sola City Plaza, Ochanomizu, <http://americaexpo.jp/>
- Saturday, October 24, 1pm-6pm, Education UK 英国留学フェア by British Council
- Sunday, October 25, 1pm-6pm beo Fair
- Friday/Saturday November 6/7, Canada Fair カナダ留学フェア at Canadian Embassy

PSAT at KIST (G10全員 G11任意)

10月14日(水)学校授業時間中に行われます。(詳細はPSAT letterをごらんください)

Mrs Keiko Okude

College Guidance Counselor
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00

keiko.okude@kist.ed.jp



卒業生大学合格実績

KIST 2015年度

2015年8月現在

注: *=奨学金提供校 | **赤太字**=KIST 卒業生在籍校

()=入学許可・合格者数 | []=在籍卒業生数

イギリス

Bangor University

Durham University

Glasgow School of Art

Imperial College London

Kings College London

Lancaster University

Leeds College of Art

University of Aberdeen

University of Bath

University of East Anglia

University of Edinburgh

University of Essex (2) [2]

University of Exeter

University of Kent

University of Leicester

University of Manchester

University of Nottingham

University of St Andrews (2)

University of Sussex

University of Warwick

University of York (2)

ヨーロッパ

Amsterdam University College

University College Utrecht

米国

Academy of Art University

Bard College

Birmingham Southern College*

Boston University*

Brandeis University

Brown University

California College of Arts (2)

California State University, Long Beach

California State University, Los Angeles

Columbia University

Florida Institute of Technology*

Fontbonne University

George Washington University

Michigan State University*

Monmouth College

New York University

North Carolina State University (2)

Northeastern University* (3)

Occidental College

Pacific Lutheran University*

Pennsylvania State University

Pratt Institute

Princeton University*

Rensselaer Polytechnic Institute

Rochester Institute of Technology

Savannah College of Arts (SCAD)* (2) [1]

School of the Arts Institute Chicago

Stanford University

Stevens Institute of Technology*

Truman State University

University of California (UC), Davis

University of California (UC), Santa Barbara

University of Illinois at Chicago

University of Massachusetts Amherst* (2)

University of Minnesota Twin Cities

University of Nebraska

Virginia Polytechnic Institute and State University

(Virginia Tech) (2)

Webster University

Whitman College

Worcester Polytechnic Institute (2)

カナダ

University Of British Columbia (UBC) (6) [2]

University of Toronto (4)

University of Waterloo

日本

International Christian University (ICU) (4) [1]

Nagoya University

Sophia University (4) [1]

Waseda University SILS

香港

Hong Kong University of Science and Technology*

シンガポール

Yale NUS College*



卒業生の声

Shreya Deshmukh はKISTの2011年度卒業生で、今年、スタンフォード大学の生体工学博士課程を開始しました。

毎年この時期は多くのインターナショナルスクールの生徒にとって新しい学校での新しい始まりの時に、私にとっても始まりの季節に感じられます。11年前、初めてKISTIに登校したとき、クラス中の生徒達がお箸でお昼を食べている光景を感心しながら眺めていました。そして4年前、日本での多くの思い出とお箸を抱えてポストン大学に入学しました。3ヶ月前にポストン大学を卒業した私は新天地-カリフォルニアのスタンフォード大学で新しい始まりを迎えようとしています。

ポストン大学での初日に私はとても覚えていられないほど多くの人に会い、数え切れないほどの「どこから来たの?」という質問に答えました。あまりに多く答えたので、一日の終わりには私の斬新な「故郷」である東京/インドが本当に存在する地名のように思えてきたほどです。しかし、16,000名の学部生が学ぶ大学にあって、大学で所属するいくつかのサークルや、ポストンの町、そしてその周辺をいまでは故郷のように感じます。

ごく自然に、私の最も親しい友人たちは工学を学んでいる人たちになりました。ある機器を何が何でも作動させるためや、授業の単位をとるために一緒に徹夜をしたり、努力したりすることほど人同士を結びつけることはありません。私が4年間を過ごすため選んだポストン大学では、生体工学という分野が私にとって身近で確固としたものになっただけでなく、この分野に私の情熱を注ぎ込む方法や、研究者たちとの交流、さらに自分の考えを実践に移す機会を与えられました。多くの学びは教室の外、大学内外でのインターンシップや研究を通して行われました。私は自分が研究している問題をより良く理解するために教授、科学者、エンジニアといった人々だけでなく、様々な都市や村の医療従事者や、患者、企業家といった人々とも交流しました。私は今では生体工学で博士号を目指し、独立したプロジェクトで自身の情熱を打ち込み実現させるという大きな夢を達成する事に自信を持っています。今日の私があるのは、教室や実験室、屋外、図書館、そして家庭-時として友人や家族が最大の教師であることがあるのです-で私を導いてくださった-遥かかなたの幼稚園からKISTを含む多くの! 学校時代の教師の皆さんのおかげです。

これまでの数ヶ月は私が時として自分自身を信じることが難しくなるほど困難なものでした。それほど21歳で博士課程を開始することは大変なことなのです-そしてほんの数ヶ月前まで、私自身、自分がおかしくなってしまうのではないかと考えていました。しかし、これまで私の目標であり物語のヒーローのように遠い世界の人々であったMITやUCバークレー・UCSFの教授陣にお会いし、自分の夢を彼らと追いつけることを励まされたことで、これまで学んだことを活かす気持ち、自分の夢の原点に再び火がつき、すべてをかけてこの戦いに挑む決心が出来ました。非常に困難な決断を下した後、私は多少の緊張感と大きな期待を持って、スタンフォード大学で自身の限界を「巧みに操作」し、医療界に影響を与えるようなことを成し遂げたいと思っています。でも、工学は私自身のほんの一部でしかありません。

幸運なことに、私は科学と数学以外のこと(IBも2つの教科だけは許可しなかったでしょう!)を話す友人たちも得ました。また、演劇から経済まで、多様な専攻の学生が集まり、他分野にまたがる学習を行うKilachand Honors Collegeにも所属していました。4年間に亘り、この混成グループは古典作品の「イーリアス」の研究からマリアの及ぼす健康被害の分析まであらゆることを学んできました。教授陣にはノーベル賞所勝者もいて、最高の頭脳との交流が出来ました。著名な作家やインターネットの開発者との白熱した議論で単位をもらえることほど名誉なことはないでしょう。私はKHCのようなプログラムを他大学で見たことがありませんが、このプログラムが-TOKのことがKIST卒業後もしばしば話題に上ると同じような感じで、私の考え方を作り上げてくれたらいいと考えています。KHCは技術的な問題が社会的、経済的、文化的、人類学的問題と同様に重要だということを理解できるエンジニアにしてくれました。これはスタンフォードで私が研究したいテーマ、世界規模の医療問題;特に調停を必要としている発展途上国や地域の研究に不可欠の要素となります。これら重要な「主観的」要素を無視しては本当の影響を与えることは出来ないからです。

卒業後も緊密な関係が続いているのはBoyd Houseです - この趣のある歴史

的な褐色砂岩の建物は奨学生のためのものですが-奨学金以上のものを

共有している集まりです。実は、KISTはここ少なからぬ繋がりがあります - KISTの卒業生のうち3名がこの奨学生だったのです! これらサークル、授業、そして自由参加のAfro-jazz やkrav magaなどの活動、さらには見知らぬ通行人との会話を通して、幸運にも世界中の異なる背景を持つ様々な人と知り合いになることができました。ポストン大学はある意味KISTと同じくらい国際的な環境で、このインドと日本人コミュニティ双方、またはある特定の文化を持たないThird-Culture-Kidsと呼ばれる多国籍な人々と関係を持つことが出来ました。

卒業式の服装や祝賀会はいつもとても楽しみなことの一つです。4年間苦楽をともにしてきた友人たちとの時間、そして私以上に努力をしてきた友人たちのことを知っているからこそ、この価値を味わえるのだと思います。学位とともによみがえる思い出や学習を思うと、KISTの考えは正しいとしみじみ思います。学習は、まさに人生のためのものなのです。これがあるからこそ、私はスタンフォードでの博士号取得やそのほかの困難に立ち向かっていけるのです。これは今までもよりもっと高度な、大人としての始まりです。それでも、持ち物すべてを2つのスーツケースに詰め込んで、今の時点で、次のステージに飛びたてるまで、自分にとって最も必要で自分が最も大きく成長できる場所へと何千キロも離れた場所に移動するというこの気持ちはいつも変わらないものです。

皆さんも進学年度にすばらしいスタートを切ることができますように!

Shreya Deshmukh
KIST "Class of 2011" 卒業生

